記入日　2020 年　8 月　27 日

会社・団体名	東亜ディーケーケー株式会社 英文名：DKK-TOA CORPORATION			
技術・設備名	汚染源　VOCs測定装置			
分類		（1）省エネルギー		（5）水処理
		（2）新エネルギー		（6）土壌汚染防止・土壌改良
	○	（3）大気汚染対策		（7）スマートシティ
		（4）循環経済		（8）その他
特徴（PRポイント）	揮発性有機化合物（VOCs）は、PM2.5 の原因物質の一つとされ、環境大気中の PM2.5 低減対策の一環としてその使用施設や貯蔵施設からの排出量の削減が課題となっています。そのためには排出量や排出濃度の把握が必要です。 ここでご紹介する汚染源　VOCs測定装置は発生源での連続的な濃度監視用のオンラインタイプ、実験室での測定に適した実験室タイプ、発生源に持ち込んで測定できるポータブルタイプを取りそろえ、多様な使用目的に応じて選択いただけます。  GHC-300 型（GC-FID 方式・定置型）  GHT-300　型（直接 FID 方式・定置型）  GIV-280 型（燃焼式 NDIR 方式・ポータブル型）  GHT-280 型（FID 方式・実験室用）			
具体的な省エネ・環境効果、経済性	大気中の PM2.5 濃度低減のための基礎となるデータを提供します。このデータを活用頂くことで大気環境の保全に貢献します。			

概要・原理	測定方法として、燃焼式 NDIR 法、直接 FID 法、GC-FID 法が提唱されており、これらに対応した 4 機種があります。 燃焼式 NDIR 法は酸化触媒を介して試料を燃焼させて二酸化炭素とし、これを NDIR 法で測定します。この方式では、全揮発性有機化合物濃度が測定されます。GIV-280 型がこの方式を採用しており電源以外のユーティリティーを必要としないためポータブルタイプとしての使用に適しています。 直接 FID 法は試料を直接 FID 検出器に導入して有機物濃度を測定します。この方式でも、全揮発性有機化合物濃度が測定されます。 GC-FID 法は分離カラムを用いてメタンと他の有機物を分離しそれらの濃度を測定します。メタンは PM2.5 等の大気汚染物質の原因とはならないとされております。GC-FID 法ではメタン以外の VOCsを測定できますので、よりきめ細かな大気汚染防止に貢献できます。
実績	日本国内では大気中 PM2.5 並びにオキシダントの低減を目指して、2008 年から VOC の排出規制が実施され、その測定・記録が義務付けられました。これを受けて国内分析機関に多数の VOC 測定装置が導入されました。中国では、2015 年から改定版環境保護法が施行され VOCsの規制が強化されています。

中国での連絡先	会社名： 重慶四聯技術進出口有限公司 担当者名： 費 文 TEL： 0086-23-6385-4043 E-mail： 13808389533@139.com 住所： 重慶市北部新区黄山大道中段 61 号川儀工業園科技楼 6 楼
日本での連絡先	担当者名： 藤谷 克己 TEL： 03-3202-0225 E-mail： k-fujitani@dkktoa.com 住所： 〒169-8648 東京都新宿区高田馬場 1-29-10
Web URL	https://www.toadkk.co.jp/